

## 早期発見・自然治癒を目指して

- ☆ 赤ちゃんの発達を注意深く観察する。
- ☆ 赤ちゃんは口から育つ pm 岩倉先生講演会
- ☆ 発達の順序: 順序を抜かず、とぶ。  
そのことが後々になってどういうことになるのか？



① 反りから寝返る

### ◆ 発達の間隔

- 首のすわり-3か月 寝返り-4か月 反って寝返り 写真①
  - ◇ 仰向けで足をもって遊ぶ(丸くなる姿勢) 写真②
  - ◇ 写真②の姿勢後に寝返りする。
  - ◇ うつ伏せで手支持、回旋、バック、前進 写真③
  - ◇ 手支持ができないとバックしないで前進してしまう

手支持・バックできずに前進した赤ちゃんは四つ這いになかなか移行しないでいつまでもズリ這い(両生類這い這い)

- \*なぜ手支持が出ないか？首が肩にしっかり乗っていない。 写真④  
肩、首の脱力をうながす体操 写真⑤

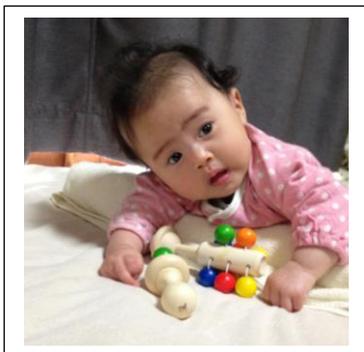


②

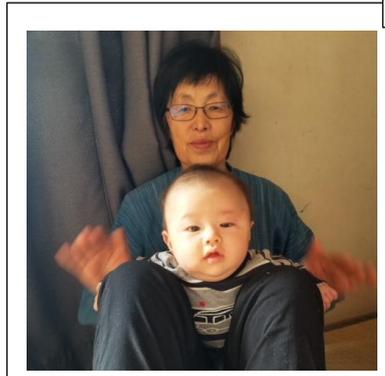
- 両生類這い這い ⇒ つかまり立ち 四つ這いを抜かず  
四つ這いで進む前のロッキング(体重移動の練習)  
四つ這いの後に
  - ◇ 座位 (赤ちゃんが自分で座位を獲得するまで座らせない)
  - ◇ つかまり立ち
  - ◇ 床から立ち上がる
  - ◇ 1歩が出る  
(満1歳前に歩かせないようにする)



③ 生後5か月半 手支持



④ 生後4か月 首が  
しっかり肩にのっていない



⑤ 生後4か月 肩に首を乗せ  
る。肩・首の力を抜く

➤ なぜ満1歳まで歩かないようにするか？

自閉症スペクトラムの子どもは早く歩いてしまう(生後9か月から11か月)

- 早く歩く子は這い這いの時期が短い
- 足の左右差が残りやすい。⇒カラダのゆがみにつながる。
- 歩き方の癖が一生残る。内反足や左右差など
- 発達障がいの子どものバランスの悪さになりやすい。

➤ 満1歳前に歩かせないようにする方法

背骨のおへその裏(腰椎1番)を常に柔らかくしておく⇒早く歩かない ⇒ 金魚運動  
金魚運動とロールマットをしっかりとやることの意味

まなかい・脱力・バランス・触覚刺激・固有覚・前庭覚への刺激

◆ 歩くのが遅い子

- 1歳4か月までに歩行が確立しない子どもの理由
- 筋肉が柔らかい ⇒ 低緊張 太ももや殿筋の弱さ
- 大腰筋の弱さ、つちふまずの形成が遅い
- プランター反射、バビンスキー反射の残存 ⇒ 足指遊び(小指側から)
- 足首を柔らかくする
- 関節をやわらかくしながら筋力をつける。

◆ 歩行してから入園してきた子

- 首が肩にしっかりとっているかどうか？
  - ◇ ロールマットでなおす
  - ◇ 首、肩のかたさをとるためにはどうしたらよいか？
  - ◇ 首が肩に埋まっているように見える。
  - ◇ 口の問題 活舌・飲み込み・よだれはどうか？
  - ◇ 口呼吸か、鼻呼吸か？
  - ◇ 多動傾向の子どもは呼吸が浅い場合がある。
  - ◇ 胸は開いているか？背中にコリはないか？
  - ◇ 目的に合わせた、金魚運動のバリエーション
- 股関節のやわらかさ、お尻が割れているか？
  - ◇ 右足と左足の分化 (3歳くらい)
  - ◇ 階段の下り、交互に足が出ているかどうか？
  - ◇ 階段の上りより、下りが苦手な子ども

## ◆ ロールマットの効用

ロールマットは子どもをロールマットに乗せて、カラダをさわる。やり方はもちろんいろいろある。しかしいちばん重要なことは、保育士が手で子どものカラダをさわることだ。素肌にさわるとアトピー性皮膚炎などのアレルギーがあるかどうかすぐわかる。また、服の上からなぜたり、ゆらしたりする。毎朝やる。午後もやっている保育園もあるだろう。この、「子どものカラダをさわる」という行為に大きな意味がある。うつ伏せに子どもがロールマットに乗って、ハーッと息を吐くと、カラダの力が抜ける。カラダのあちこちをさわり、なぜたりゆらしたり、関節を曲げたり伸ばしたりして、子どもは手をついてゴロンとでんぐり返しをする。ただこれだけのことであるが、ロールマットにじっと乗っていられるようになることがポイントだ。はじめから嫌がらずにやってくれる子はいいい。中にはじっとできない、さわるとくすぐったがる。じっとできずに、すぐに降りたくなる子もいる。しかし、毎日のロールマットは触覚刺激だけでなく、固有覚や前庭覚への良好な刺激になる。【さわられる・ゆらす・前転・後転・逆立ち・背骨を丸める・反らせる・胸を開く・手指を開く】というこれらの動作を毎日、朝ひとりに3分もあればできる。早い子は1分くらい、少し時間をかけても5分くらいで終わるこの運動は多動でいつも走り回っている子には特に有効である。また緊張が高い子や、怖がりだったり、人との関係が苦手なような子にも有効だと思う。そして斎藤公子はこのロールマット運動は【脱力・脳の血流を促す】という最大の目的のために考えだされた。

ロールマットの大きさは子どものカラダの大きさに合わせるが、慣れていない子は小さめのマットでやるほうがよい。このロールマット運動は生後3か月からやる。



『育てにくい子にはわけがある』 木村 順

三つの「感覚」

### 1. 触覚系の二つの系統

- 原始系…警戒・防衛・逃避・闘争 怖がりな子ども、カラダがかたくなりやすい子、意味不明のかみつき(保育士から見て、何で噛みつくのかわからない。噛む子にはそれなりの理由があるが保育士にはわかりづらい)
- 識別系…さわることによってそれが何か？を識別する。見る一さわることによって、原始系と識別系のバランスがとれるようになる。
- 怖がり・噛みつきの子どもの対応

### 2. 固有覚…力加減、生活の中での力加減

### 3. 前庭覚…バランス感覚 カラダの傾き 立ち直りの力 正中線